

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式

記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は3題で変わらず、総ページ数(12ページから13ページ)は増えたが、設問の数(22問から13問)は減少し、全体としての分量はやや減少した。

計算過程を記述する問題の数(4題から11題)は見かけ上増加したが、内容は単純なものが多かった。また、論述問題の数(4題から1題)は減少した。

取り組みやすい設問が増え、思考力を要する問題や煩雑な計算問題が減ったため、全体としては昨年よりやや易しかった。

出題の特徴や昨年との変更点

目新しいテーマや題材がよく出題される。本年は、現行課程で新たに加わったエントロピーやギブズエネルギーが[1]で扱われた。また、[2]では水素社会や光触媒について触れられていた。

例年どおり、計算問題では導出過程を書く形式が踏襲された。

無機分野からの出題がなかった。

その他トピックス

なし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	記述, 選択 計算	理論	化学	水の状態変化 エンタルピー エントロピー ギブズエネルギー	標準
[2]	記述, 選択 計算	理論	化学	水素 燃料電池 水の分解の反応速度とエネルギー 酸化チタン(IV)の結晶構造(ルチル型)	やや易
[3]	記述, 選択 計算, 論述	有機 理論	化学	アミノ酸とタンパク質 アミノ酸の分類 アミノ酸の等電点 タンパク質の立体構造と変性	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

ここ数年は標準的なレベルの問題を中心に出题されているが、実験データを基に考察して解答する問題や受験生にとっては見慣れない物質や現象をテーマにした問題が多く出題されるので、標準的な問題を確実に解ける学力を身に付けるとともに、「考える力」を養う訓練を心がけること。